

ひかりのこ

8・9月園便り

聖ミカエル幼稚園

2012年8月21日発行

月主題：きもちいいな

7月26、27日の2日間、北海道の聖公会の幼稚園・保育園全9園が一堂に会し、平取・新冠で研修会が行われました。その1日目の研修で、福島県いわき市の『清風幼稚園・りんごの木保育園』の園長先生の吉田久仁子先生の講演がありました。

昨年の3月11日のあの大地震。大きな揺れに見舞われましたが、幸い誰も命を落としたり、怪我をしたりすることはなかったこと、その日は、保護者の全員は、なかなか園児を迎えには来られず、夜遅くまで数名のお子さんを預かったこと、園児が帰った後、食料を買おうとコンビニに行くともうほとんど食料がなくなっていたとのこと。しばらくは生活用品を手に入れることが大変で、炊き出しや配給に頼る生活が続きました。

しかし、福島いわき市の場合、被害はそれだけにとどまらず、原発事故による被害が今も続いているとのこと。昨年1年間とはかく「除染」。除染除染に明け暮れる毎日だったそうです。園庭の土を全部さらって入れ替えたいが、汚染されていない土を手に入れることがなかなかできない。庭の木の皮をはいたり、園長先生自ら木に登りチェーンソーで、枝を取り払い、その後土も入れ替えて、何とか短時間でも園児がマスクなしで、外に出て遊べる環境を作ったとのこと。ところが今年に入って2次的な被害が表面に出てきました。それは、「心的被害」です。とにかく元の生活を取り戻そうと1年間必死に働いてきた親御さんたちのなかに、ひと段落ついたところから精神的な不安を感じる方が増え、今後は幼稚園としても、親御さんたちの心のケアにも力を入れていきたいとのことでした。

私はすぐ近くの北海道にいながら、いまだに苦しんでいらっしゃる方たちのことを、だんだんと考えなくなってきた自分に「はっと」させられました。それとともに、もしミカエル幼稚園が同じような状況に置かれたら、私たちはどのようにして災害から子どもたちを守り、その後どのようにして子どもたちを育てていけばいいのか、を考えさせられました。他人事にはいけない大きな課題です。

講演会後の夕食会では、すぐ隣に吉田先生が座り、いろいろなお話ことができました。私は吉田先生に、「まだまだ大変ですね。親御さんのケアももちろん大切ですが、先生もどうぞお休みできるときはお休みして、お体大切にしてくださいね。」と声をかけました。

長い夏休みが終わり、今日の始業式、お子さんたちはわくわくしながら登園したことでしょう。2学期もまた、園庭に明るい元気な声が響きわたり、土や虫さん、木や葉っぱやお花、おいしいトマト

やえんどう豆などのお野菜に囲まれて、ミカエルの子供たちはすくすく育っていくことでしょう。しかし、その安心できる、心から「きもちいいな」思える環境が当たり前ではないことを、子どもたちも私たち保育者も心にとめ、神様に感謝し、まだ不安を抱える方たちや、子どもたちのことを忘れずに生活していきたいものです。保護者の皆様もどうぞ福島の方々のためにお祈りください。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

お茶にいらっしゃいませんか。

チャプレンの一番大事な仕事は、神さまの幼稚園である聖ミカエル幼稚園が行っているすべての働きが神様の愛と恵みの中で行われるように祈り、そして、聖書のお話をもってその方向に案内することです。

そして、チャプレンのもう一つの大事な仕事は、皆さんの話を聞く相手になることです。人生色々ありますね。思った通りすべてがうまくいく人生などありません。つまり場合があれば、悩む時もある、それが私たちの人生のリアルな現実です。しかし、いくら現実と言っても、つらいことには違いありません。そういった時、「あのですね」って一言つぶやくだけで心がほっとする場合があります。つぶやいているうちに自分の中でもやもやしていたことが整理されたり、すっきりする場合があります。つまりそう言うお手伝いをするのがチャプレンの大事な仕事の一つなのです。現実の問題から逃げることは出来なくても、分かち合うことでそれを小さくすることは出来ます。そう、目を瞑って知らんぷりをして消えないそれが、共に分かち合うことで小さくなる場合があるのです。小さくなれば、片付けやすい。これが長い間、ソーシャルワーカーとして、そして、牧師として、様々なケースを通して確認してきた事実です。さあ、お茶にお出てください。担任の先生に、または、幼稚園の先生誰にでも気軽に一言、言ってください。「お茶に行ってもいいですか？」って、お待ちしております。きっと道はあると思うから。

チャプレン 司祭 ジョシュア 李 香男